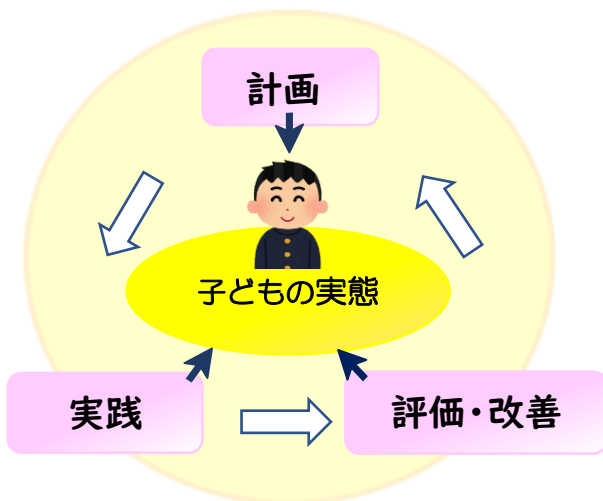


指導・支援に生かす個別の指導計画にするために

個別の指導計画は、児童生徒一人一人の指導目標や指導の手立てを明確にして、きめ細かな指導を行うために作成するものです。作成するだけでなく、指導・支援に生かすことが大切です。



個別の指導計画に基づく指導は、計画、実践、評価・改善のサイクルで進められます。この一連の過程の中で、個別の指導計画をツールとして、子どもにかかわる教員が情報を共有し、その時々の子どもの実態について理解を深めていくことが、指導・支援に生かすことにつながります。



常に子どもの実態に合わせて指導・支援の工夫・改善を行うために、個別の指導計画を使っていくんだね。大切にしたいことを紹介するよ。

大切にしたい5つのこと



① これまでの個別の指導計画を確認する



② 本人・保護者の思いや願いを聞き取る



③ 指導に当たる教員が指導目標や手立てを検討する



④ 日頃から授業で見られた子どもの姿を話題にする



⑤ 学期末に目標の達成状況を評価する



① これまでの個別の指導計画を確認する

うまくいっている状況やこれまでの指導の手立てなどの情報を確認することで、子どもが力を発揮できる指導・支援を継続して行うことができます。

【Aさんの個別の指導計画】

うまくいっている状況：やるべきことが明確であれば進んで取り組める。

新しい活動を行うときは
事前にイラストや写真で
示すようにしよう。



特別支援学級担任

ポイント

子どもの実態は日々変わって
いくものです。前任者の見立て
た情報を確認した上で、実際に
子どもとかかわりながら、理解
を深めていきましょう。



② 本人・保護者の思いや願いを聞き取る

本人・保護者の「こうなりたい」「こうなってほしい」という思いや願いを聞き取り、指導目標等に反映することで、子どもが主体的に取り組める学習内容を設定することができます。

Aさんは、教科によっては
ノートをとるのに時間
がかかってしまうことが
あるようです。御家庭で
何か言っていますか？

鉛筆で書くことが苦手なようで…
タブレットが使えたらいいなって
言っていました。



特別支援学級担任

まずは、自立活動の時間に
タブレットの使い方を学んで
みて、その後授業で使うか
どうか本人と相談してみたい
と思います。

ポイント

懇談などの機会に、学習での
様子や家庭での生活の様子を
話題にしなが、丁寧に聞き取る
ことが大切です。

聞き取ったことを指導に生か
し、その経過や評価についても保
護者と共有することを心掛けま
しょう。



③ 指導に当たる教員が指導目標や手立てを検討する

自分が授業を行うことをイメージしながら検討することで、実際の学習活動に即した具体的な目標や手立てを設定することができます。

Aさんには、昨年度
このような支援を行って
いました。
(特別支援学級担任)



なるほど。社会では、
調べ学習の際に検索
しやすいキーワードを
個別に提示するなど
の支援をしたいと思
います。
(社会科担当教員)

Aさんは高校に進学したいという希望がありますね。本人が取り組みやすい学習方法をどの教科でも事前に確認できるといいですね。
(特別支援教育コーディネーター)

ポイント

指導に当たる教員が作成に
必ずかかわることができるよう、
校内の協力体制を整えること
が重要です。

特別支援学級担任だけで作
成するのではなく、通常学級担
任や特別支援教育コーディネ
ーターなどを交えて検討しまし
よう。



④ 日頃から授業で見られた子どもの姿を話題にする

授業での様子を共有することで、子どもの実態を多面的に捉えたり、それぞれの教員が指導目標や手立てをより意識して授業を行ったりすることができます。

【Aさんの個別の指導計画】

理科の指導目標: 器具を適切に扱って、友達と協力しながら実験に取り組むことができる。

先日話題になった理科
の実験ではどんな様子
でしたか。



特別支援学級担任

実験器具の扱い方を事
前に教えたら意欲的に
取り組んでいました。



理科担当教員

事前に練習したので安心して取
り組めたのかもしれないね。
学級でも、理科準備係をやりた
いと言っています。

それは意欲的！
今度は友達と一緒に
活動できる場を設けて
みますね。

ポイント

短時間でも指導目標に関
連したことを話題にすることが
大切です。

授業で見られた意欲的な姿
や効果的な支援策を共有する
ことを心掛けましょう。



⑤ 学期末に目標の達成状況を評価する

指導目標に対してどこまでできたか、どんな状況ならできていたか、ということを経験することで、次に目指すべき適切な目標を設定することができます。

【Aさんの個別の指導計画】

国語の指導目標：経験したことを文章で表現することができる。

指導の手立て：時系列で事実を整理するワークシートを提示する。

ポイント

目標が達成できたかどうかだけでなく、指導・支援は子どもの実態に合っていたかという視点から評価することも大切です。

成果につながった要因や、さらに工夫できたことなどについて検討し、指導・支援の改善に生かしましょう。

ワークシートを使うことで経験したことの整理はできたな。
次は自分の考えを交えた文章を書くことができるような目標を立ててみよう。



特別支援学級担任

次年度に向けた引継ぎ

個別の指導計画を確実に引継ぐことで、環境が変わっても本人に合った指導・支援を継続して行うことができます。一方、指導・支援に関する情報の中には、個別の指導計画に記載しきれない細かな情報もあります。例えば、「こうすればうまくいく」という効果的な支援策の裏側には、担任としてどのように子どもとの信頼関係を築き、その子に合った方法を見つけていったのか、というエピソードがあるはずです。そのようなエピソードは、次年度の担任が指導・支援を行う上で大変貴重なものとなります。必要な情報が伝わるよう、できる限り対面で引継ぎしたいものです。

栃木県総合教育センター 教育相談部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
TEL 028-665-7211
<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>
発行 令和6(2024)年 3月

センターwebサイトからダウンロードできます。

